

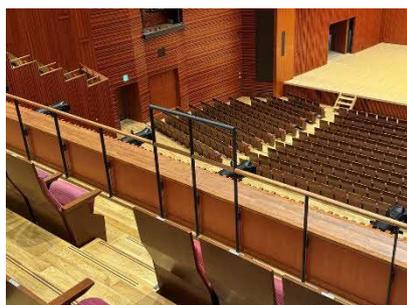
第6回(仮称)古河市新公会堂基本構想・基本計画市民委員会 会議録

日時	令和6年7月29日(月)13:00~15:00
場所	白河文化交流館コミネス
出席委員	中野委員(副委員長)、渡辺委員、蓮見委員、塚田委員、佐藤委員、小川委員、蘇武委員、柿沼委員
欠席委員	小林委員(委員長)、野村委員、下村委員、初見委員、関根委員、楠田委員、今井委員、稲葉委員、宮本委員、岡安委員、千野委員
事務局	企画政策部 綾部部長 プロジェクト推進課 細見課長、山中課長補佐、海老原係長、小木主査、福田主幹
受託者	シアターワークショップ・日本工営都市空間設計共同体 株式会社シアターワークショップ(TWS) 山本、森田 日本工営都市空間株式会社(NKU) 福林、今吉
内容	1.開会 2.あいさつ 3.施設見学 4.質疑応答 5.閉会
	【(仮称)古河市新公会堂基本構想・基本計画市民委員会】 1. 開会
	2. あいさつ 白河市市長公室長 鈴木 健一氏 白河市は人口が減少傾向にあり、消滅可能性都市にも指定されている。対応策として行われた中心市街地活性化計画のひとつとして白河コミネスの事業が立ち上がった。  白河文化交流館コミネス副館長 藤田 光徳氏 現在の館長、副館長は2代目で、令和2年4月に就任した。館長の宮田 慶子氏は劇団青年座などでも活躍している。コロナ禍でも文化の火を絶やさないという思いから、令和2年度には屋外スペースを活用するなどし、17 の自主事業を行った。「できるだけ敷居の低い館」をモットーにしている。  古河市企画政策部 綾部部長
	3. 施設見学 小ホール→練習室 → カギガタモール → 大ホール1階ロビー → 大ホール2階ロビー → 大ホール2階席 → 大ホール1階席 → 大ホール舞台、舞台袖 → 大ホール楽屋 → 大ホール搬入ヤード → ピアノ庫 → 小ホール楽屋 → 2階中庭 → 小ホール2階ロビー の順で見学。

## (1) 大ホール



高い音響性能を持つ多機能ホールで、視察日は音響反射板を展開した状態。1階席の前方3列は取り外すことができ、舞台を広くしたり、オーケストラピットにしたりして運用することができる。オーケストラピットの使用頻度は、自主事業で年間に2回。



大ホールは2層構造になっており、2階席の前方には落下防止の手すりが設置されている。2階席前方の座席に座ると視界に手すりが入ってしまうため、自主事業では売り止めになってしまうこともある。



1階席後方部の座席は背倒れ席になっており、持ち込みの音響調整卓が設置しやすくなっているが、実際は背もたれを倒すのが手間なので、席の上から被せる形でPA卓を設置することもある。



本来は2階ロビーがホールの入り口として設計されていたが、来場客にわかりにくかったため、現在は1階から入るように運用している。2階入口は、ロールスクリーンを下ろしている。



大ホール1階の客席後方にある特別鑑賞室。上手と下手に1室ずつあり、最大で8名まで利用できる。

## (2) 小ホール



客席がロールバックチェアになっており、平土間としても利用できる。プロの舞台芸術や市民の文化活動の発表の場として利用されるほか、平土間のときには健康診断の会場として利用されることもある。照明はキャットウォークから仕込む必要があるため、大変だという声もある。



ロールバックチェアの展開は約5分で完了する。全自動で展開されるが、最前面の床との接地面は人力で固定する必要がある。座っていると、他の人が階段を昇降するときに揺れや足音が気になる場合がある。



前方4列の座席は床下に収納されている。座席が連結されているものと一つ一つで分割されているものがあり、設置するにはスタッフ4人がかりで40分ほどかかる。

## (3) 練習室



カギガタモールに面し、ガラス窓から中の様子がわかるようになっているが、スクリーンを下ろして使う人がほとんど。遮音性が高く、楽器の練習や合唱、バレエなどのダンスの練習にも利用できる。アップライトピアノ、エレクトーンが常設されている部屋と壁面に鏡が設置されている部屋の2つがある。



練習室には、バンド練習などでアンプやドラムセットが必要になると、都度倉庫から練習室に運び込む必要があり、負担が大きい。バンド専用の練習室があったほうがよい。

#### (4) 楽屋



楽屋入口。線路側に面しており、一般の来場者とバッティングしないようになっている。

入って右手が小ホール側楽屋(3 部屋)、左手が大ホール楽屋(5 部屋)になっている。



個室の楽屋。中庭に面しており、外からの光が入るデザインになっている。



大部屋の楽屋。壁面に全身が見える鏡が設置されており、簡易的な着替えスペースもある。可動式パーティションで 2 部屋に分割して使用することも可能。

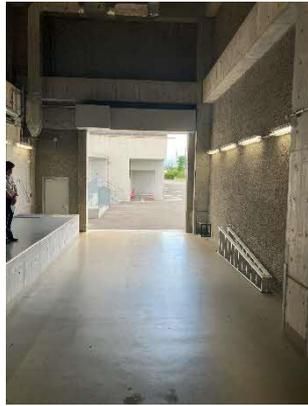


楽屋前の廊下に設置されている棚。楽器置き場などとして利用できるため、出演者に好評。

#### (5) その他



大ホールの裏にあるピアノ庫。ヤマハとスタインウェイの 2 種類を所有しており、弾き比べ体験会が盛況。ホールに出すためには角を曲がる必要があり、運搬が難しい。ヤマハは市民会館にあったもので、スタインウェイは企業からの寄付。



大ホールの搬入ヤード。線路側にあり、大ホールの上手側とつながっている。搬入ヤードには複数台入れたほうが便利とのこと。



共用部ロビーにあるオストメイト対応トイレ。開館当初は設置されていなかったが、バリアフリー対応のために後付けで設置した。



大ホールのトイレの表示。開館当初は違うデザインだったが、馴染みがなく男性用なのか女性用なのかわかりにくいという声があり、男性用は青、女性用は赤の一般的な表示に変更した。



大ホールの女性用トイレの中。可動壁が設置されており、男性用トイレの数と調整できるが、女性用トイレの方が圧倒的に列ができるため、常時女性用トイレが最大数となるように運用しており、可動壁を動かしたことはない。

#### 4. 質疑応答

古河市から事前に提出していた質問事項を中心に質疑応答を行った。

(1) 大・小ホールの規模や客席形状、諸室の数や大きさについて

基本構想の時点では、大ホールは 1,300 席、小ホール 350 席規模の劇場を計画していた。

建築検討委員会にて大ホール、小ホールそれぞれの機能を検討し、大ホールは 1,100～1,200 席程度の音楽を主とした多機能ホール、小ホールは移動観覧席・可動壁を設け、様々なシーンに対応できるよう計画した。また、騒音・振動測定の結果、浮構造を採用することになった。

基本設計では、大ホールの客席をもみあげ式にすること、小ホールを演劇、講演、市民の発表の場として活用できる空間とし、より具体的な方向性を示したほか、練習室や楽屋の数、機能について検討が行われた。また、パブリックコメントや市民説明会を通して市民の意見を募った。

(2) 大ホールのオーケストラピット、小ホールの平土間、カギガタモールでのイベントの利用実績について

大ホールのオーケストラピットの利用は、自主事業で年間に2回程度。その他、オーケストラピットとしての使用ではなく、舞台面を広げるために客席を取り外すことはある。

小ホールを平土間形式で利用するにあたり、移動観覧席を動かした回数は令和5年度で28回。ただし、平土間のイベントが連続する場合などもあるため、平土間で利用された回数ではない。

カギガタモールの利用は令和5年度で2回。大ホールの催事と関連したイベントで、マルシェと企業の実績発表ブースとして利用された。それ以前では、コンサートや映画の上映、縁日としての活用実績がある。

(3) キッズルームの安全性を確保するための取り組み、バリアフリー対応や利用者からの要望、災害時における防災機能、館内レストランの利用者層や実績について

キッズルームの安全性確保のために、防犯カメラを設置している。また、常時開放はしておらず、受付で鍵をもらわないと中に入れないようになっている。令和5年度に事前の利用申請があった回数は15回だった。

バリアフリーについては、ユニバーサルデザインに基づいた建築になっているが、エントランス側のトイレにオストメイト対応のものがなかったため、後付けで設置している。バリアフリーの要望については、館内は特にないが、外回りの仕上げ材に凹凸があり歩きにくいという意見があった。

防災機能については、一時的な避難所としての役割にとどまるため、食料などの備蓄はしていない。

レストランの客足は、コロナ禍を経て8割程度まで回復したが、夜間の宴会は減ったままになっており、営業時間を短縮し、定休日を増やしている。

(4) 事業実績、市民参加による創作事業について

	<p>創作事業については、開館してから3年は参加者が多かったが、年数を重ねると、年間スケジュールの中から演目を選ばれるようになり、安定した集客は難しくなっている。参加者を増やすために、館付きの団体(混声合唱、演劇など)に協力要請をしている。内容によっては事業費が高額となるが、チケット料金が低いと集客が伸びないため、入場料の設定が難しい。高いもので7,000円、その他は5,000円を相場として設定している。友の会に入会すると、チケット料金が500円引きになるほか、会員先行販売が利用できるが、開館当初は2,000人ほどの会員は現在では800人程度になっている。</p>
	<p>(5) 建設、運業者の選定や事業手法の決定、財源の確保などの各進行段階について</p>
	<p>基本設計は、白河市工業等請負有資格業者名簿に登録がある業者で、平成22年度全国設計事務所の設計・監理売上高ランキング「文化施設」部門の上位6社を選考し、指名競争入札により(株)日本設計が落札し契約。実施設計も(株)日本設計と随意契約。      施工は建築工事、電気設備工事、暖冷房衛生設備工事、屋外整備工事に4分割して発注。大手企業と地元業者のJV方式を採用した。監理についても、(株)日本設計と随意契約。</p>
	<p>(6) 来館者動線と管理者動線の良い点と悪い点について</p>
	<p>イベントの際に、隣接する図書館の駐車場にも利用者の車が止められてしまい、図書館からクレームがくることがある。また、コミネス専用の駐車場もあるが、線路を挟んだ反対側で、歩いて7分ほどの場所にあるため、利用したがる来場者が多い。車社会の地域に建てるのであれば、駐車場は多めに確保した方がよい。      来場者入口と受付の位置が近いが、それゆえに受付より奥に行く人が少ない。受付と練習室の位置が逆であれば、受付のために施設の奥まで人が来てくれるようになり、ロビーで行われている展示等をもっと見てもらえたのではないかと考えている。</p>
	<p>(7) その他質問事項</p>
	<p>蘇武委員: スタインウェイのピアノはいつ頃寄付されたのか。      → 竣工と同時期だった。開館に間に合う形で納品された。地元企業からの寄付であった。      渡辺委員: ピアノはどのように小ホールまで運搬するのか。      → ピアノ庫から角を曲がりながら運搬する。      柿沼委員: 小ホールでピアノの発表会をする場合、ピアノの貸出料金を含めた利用料金はいくらか。      → 9時から18時までの枠の場合、6万円になる。内訳としては、3万円がスペースの貸出料金、残りの3万円が設備利用料。      柿沼委員: 利用料の減免は市の文化芸術団体などにも適用されるか。      → 減免の対象は、学校行事のみになっている。      蘇武委員: コミネスの名前の由来となっている小峰城の認知度はどの程度か。      → 近隣住民であれば概ね認識されていると思う。</p>
<p>5. 閉会  以上</p>	